

平成 25 年度は、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 渡邊 錠太郎 1874～1936年 》
—愛知県出身の陸軍大将—



任務状況復奏（登録番号：陸軍省-欧受大日記-T10-2-32）

渡邊錠太郎大将は、明治 29 年 11 月、陸軍士官学校（8 期）を卒業後、第 7 師団長、航空本部長、教育總監などの要職を歴任しました。この史料は、第一次世界大戦中の大正 7 年 1 月からオランダの公使館附武官としてハーグに在勤した渡邊大佐が、帰国後の大正 9 年 6 月 10 日に報告した「和蘭国在勤中ニ於ケル任務状況復奏」です。この中で渡邊大佐は、「主トシテ獨国内部ノ情勢及世界戦争ノ経験ニ基ク軍事上ノ研究ニ従事」した結果、第一次世界大戦における「軍事技術ノ発達ハ各種新兵器ノ現出ト為リ戦術上ニ一大変化ヲ来タシ戦争開始当時ノ戦術ハ殆ント痕跡ヲ留メサルニ至レリ」、従って「軍隊ノ編制、装備、教育等ニ関シテモ亦著シキ変革アリ」、「眞ニ今次ノ世界戦争ハ軍事界ニ一大時期ヲ画セリ」と報告しています。



九二式重爆撃機準制式制定（登録番号：陸軍省-密大日記-S8-3-7）

第一次世界大戦後、世界の航空機の性能が飛躍的に向上するなか、陸軍は昭和 3 年、台湾からマニラ方面を攻撃できる超重爆撃機の研究を開始します。試作機は「特殊試験機」と呼ばれ、1 号機が飛行したのは昭和 6 年でした。この史料には、当時航空本部長であった渡邊大将が荒木貞夫陸軍大臣に報告した昭和 7 年 6 月 22 日付の「特殊試験機審査ニ関スル件」が含まれています。この中で渡邊大将は、「特殊試験機」は「遠距離ニ行動スヘキ重爆撃機トシテ採用シ得ルモノト認ム」と報告しています。昭和 8 年 8 月 2 日、陸軍省は「特殊試験機」を「九二式重爆撃機」（四発、航続距離 2,500 キロ、全備重量 25 トン）として制定し、昭和 10 年に 6 号機まで生産しましたが、この間に時代遅れの機種となり、「九二式重爆撃機」は実戦に参加することなく退役しました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

- ※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）
外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
- ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>